

2 学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくりの実際

「心をひらいて 友情、信頼」(第6学年)

教材名：ことばのおくりもの(香川県小学校道徳教育研究会 6年『わたしのいく道』)

(1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【育成したい「思考力」】

男女の友情に関わる問題について、自らの課題を捉えたり、自らのよさに気付いたりして、生活のさまざまな場面で互いの人格を尊重しようとする力

自分が友達と仲よくするために大切だと思うことを、すみ子の言動を基に話し合いながら、友達との関わり方を振り返り、真の友情を伴った行動を考えている。

【学びに熱中する子どもの姿】

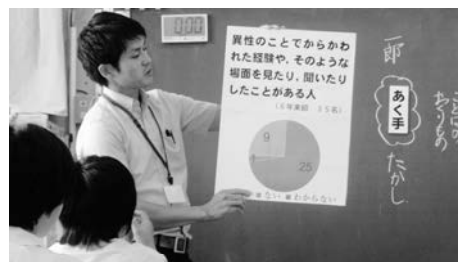
家族や友達等、子どもたちはさまざまな人間関係の中で生活を送っている。その中でも友達関係は子どもたちにとって最も重要な人間関係の一つであり、その状況によって楽しい学校生活を送ることができるかどうか決まることも少なくない。本教材に登場するたかしは、クラスメイトのすみ子と一郎のことを冷やかしていたが、男女関係なく友達を許したり、よさを認めたりするすみ子の言動に触れることで互いのよさを認め合う真の友情の大切さに気付いていく。この教材を通して、例えば、「僕は最近、同性の決まった相手としか仲良くしていないな」と自らの課題を捉えたり、「私は、当たり前のように、性別に関係なく協力したり、注意したりしていたけれど、それは大切なことなんだ」と自らのよさに気付いたりできるようにしたい。そして、よりよい友達関係を築くために、互いを認め合い高め合おうとする力を育成したい。

本学級の子ども(男子18名、女子17名)は、第二次性徴期に入るため異性への関心が高まり、休み時間等に異性と仲よくしているだけで冷やかされたり、グループで活動する際に同性のみで固まったりすることが増えている。また、友情や男女の関わりについての質問紙調査の結果から、友情で大切なことは、「優しくしてあげること」や「困っているときに助け合うこと」と捉えている子どもが半数以上である。男女の関わりについては、関わることで冷やかされたくないと感じている子どもがいることが分かる。互いのよさを認め合い、高め合うような関わり方の大切さを、教材を通して理解するとともに、自分はそのような関わり方ができているかを、対話を通して振り返り、相手の長所も短所も理解した上で、互いに高め合うような真の友情を育てようとする姿が、学びに熱中する姿である。

(2) 学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育むための働きかけと子どもの姿

① 質問紙調査の結果を提示して、教材と自分の経験をつなぐ

子どもたちは、当番での活動や休み時間等で、異性との関わりを冷やかされたり、そのような場面を見たり聞いたりした経験がある。そこで、そのような経験がどのくらいあるか、導入時に質問紙調査の結果を円グラフで提示したり、実際の出来事を伝えたりして、教材で起こっている問題を自らの問題として受け止められるようにした。さらに、一郎とたかしの変容の原因となったすみ子のよさについて話し合い、「相手を許す優しさ」や「相手のことを理解しようとすること」の大切さについての理解が深まった後にもこの円グラフを提示した。そうすることで、子どもたちは、自分にとって大切なことは何かを考えていった。



【質問紙調査の結果を円グラフで示す】

② 対立軸を明確にして選択を促す発問を行い、多様な価値観を比較できるようにする

一郎とたかしの変容の理由を、すみ子の言動から考えていった。一郎とたかしが握手できた理由として、すみ子は相手を許す優しさをもっており決してたかしを冷やかさなかったことと、一郎のよさを理解して関わっていることの二つを板書上に位置づけた。そして、「自分が友達と仲よくするために大切なのは、冷やかさないことだと思いますか。それとも、自分が友達と仲よくするために大切なのは、よいところを見ることだと思いますか」と発問し、選択を促した。そして、グループ対話の後、以下のような対話を通して、友達を許したり、よさを認めたりすることの大切さとともに、相手の長所も短所も受け止めて、互いに高め合うことが友情であると気づき、友情についての価値理解を深められた。



【対立軸を基にしたグループ対話】

子どもの姿

T：どちらかというと「冷やかさない」を選んだ人、理由を教えてください。

O1：冷やかさなければトラブルは起きなかった。

O2：よいところが見つけられなくても嫌な気持ちにはならないよ。でも、冷やかされると嫌な気持ちになる。

O3：みんなが冷やかさなければ、お互いによいところを見るようになっていく。

T：両方、何かつながっていきそうですね。よいところを見るのが大事だよっていう人はいますか。

O4：よいところを見た方が、友達の新しい発見やクラスのいいところが見つかる。

O5：本人もうれしくなるし、それによって冷やかしも無くなると思う。今回の場面はそうだったと思う。

O2：O5さんの意見を聞いて、よいところを見るのも大事だなって思った。



この後、相手の長所も短所も受け止めて優しく接するすみ子の言動に対して、子どもたちからは、「すみ子ってすごい」と感動の声が聞かれた。すみ子の言動に感心し、そこに表れている友情の価値について理解を深めていったと考えられる。そして、子どもたちは、「僕は、あまり相手のよいところを見つけれられていないので、これからは友達のよいところを見つけたい」「友達のよいところ、その人らしさを積極的に見つけたい」と、自らの課題を捉えていった。さらに、学習の振り返りにおいては、学習の前後でノートに記述した友情の捉えを比較できるようにした。ノートの記述からは、よりよい友達関係を築くためには、性別に関わらず誰とでも協力することが大切であるという気づきや、今の自分を振り返って、自らの課題やよさを見つけ、真の友情について考えを深めている姿を見取ることができた。

(3) 考察

教材の出来事が自分たちの学級でも起きていることだと実感できるように、質問紙調査の結果を円グラフで提示することで、子どもたちは主体的に授業に参加し、自分事として考えを深めていった。さらに、対話を通して多様な考えがあることに気づき、他の考えを取り入れながら、自らの課題を捉える姿も見られた。学習意欲を育て、対話を通して「思考力」を育成することに一定の成果が認められたと考える。

一方で、対立軸を生かして、子どもたちがすみ子のすごさやすばらしさに気付ける支援が必要であった。すみ子のすばらしさを友達に伝えたいという思いが高まれば、さらに対話を促進できただろう。対立軸を生かしつつ、道徳的心情を育てる多様な指導方法の可能性も探っていきたい。